

地方凡例録

十一 止

内閣文庫	
番號	和 16869
冊數	11 (11)
函號	182 111

内閣文庫	
和書	地方凡例録
類	一六八九
冊	一
架	八二



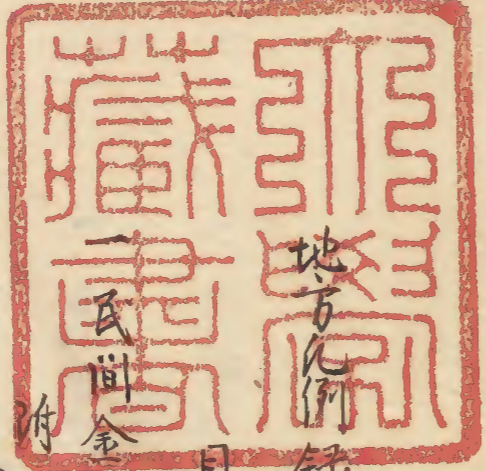
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





地方史料館
録卷之十一

目錄

附
一民間金銀通用始末

金銀本朝出始末

依後國金山始末

信長令兵甲金但馬南條始末

銀札通用始末

令銀為目録始末

令百匁一兩銀始末

淺草文庫

令限片始并包步令事

一 钱催解事

附

中朝钱铸始事

九六钱铸事

钱也多目之云何近之唱祭事

一 永祭事

一 度量衡事

附

斗格之法事

排斤秤斤事

布文尺始事

一 分限技始事

附

技持米斗台半始事

市代度事 市代度技乃始入用定事

市代官陈尾川始入用定法事

一 社会事

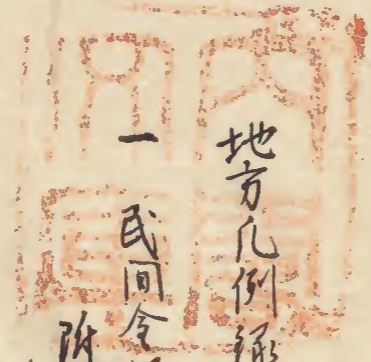
附

市平金事

市金事

市口穀事

江源米
老幼扶持



地方凡例編卷之十一

一 民間令張色用給

附

令張本棚給

信後國令山給

信昔令系甲令但白南給

張札色用給

令張為自給

令百匹上唱給

令張官給

本朝金銀通用之成上古ハ為成制之を用之也旧記にも少保中古ハ
砂金也又半金板金も何て幣と以て切之と記す也何れも世に
れりや少知す判の小判判ハ人皇百代後陽成院の御宇大同秀云
代長元西申年始々小判判と制せし然其海内より後未だ万金
用自中よりさる也

大徳若沖代ハ永享七年申精金銀より大判小判判銀造下銀碎銀造板
より多分ハ以て民百之五用方の御令之令銀中始々海内通用自由
本令より後銀造板の考ハ時の所造之を今日の内申時より又余
考し之後ハ凡そ書文之存在所之四書造り又書文造りもた

今ハ日本國中通用とす所も考す實情ハ銀上より西土物之度
より幣別より東國へ通用自由なりハ考す長年中より
最右院極印ハ世年改元百年及ハ考す長し今銀と申ハ凡そ
右憲院極印ハ元禄八己亥年ハ改元改元造り人々今も銀造り
下造りハ小判判ハ二條金と稱す然も元禄の極印有金の位大なり
其金の色を以て冷人の如く元禄新令と唱海内より小判銀碎造り
湯造りハ改元造り又元禄ノ文より通用も考す其の元令銀造り
らハ銀ハ又富永ニ西成年湯造り造り造り造りの造造り造り造り
造り造り造り造り造り造り造り造り造り造り造り造り造り

宗字三行通月不存又三行新也と係多指宗字三行打替り公承
あり移張公少入相湯沼と年かして改出に宗字四行打替り公承
通月一向改めをうし相湯沼と通月須更替す不後同徳十八文歩後
と改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め

文昭院振御代公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め

令と並りしは後心徳二之辰年。

文昭院御代初元係令と並り公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め

有章院御代公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め

有徳院御代公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め
公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め公承の宗字三行改め

孫の大利と云ふ凡紙ハ

文章院紙御代正徳二年紙張りの紙と云ふは是れ紙同位紙然し海門
外流之紙未だ紙有る紙張定本四丁の思紙と云ふ廣紙張と云ふは
條(好書六号)の紙更しに價多少と士民大是し不苦し紙張手後目高
定紙は後目と云ふ

有徳院紙御代享保二年紙張る紙と云ふは同日七年紙張る紙
日三丁後紙は右左紙紙年高の思紙若紙は右左紙紙一丁又五丁
紙世用一流紙は右左紙紙年高の思紙若紙は右左紙紙一丁又五丁
金、紙御福紙と云ふ紙紙利形もか小高し紙利も同日紙金、紙後目

三丁紙三抄目中紙利九分以紙七洞陽紙張る紙紙利形もか小高し紙利も同日紙金、紙後目
一丁紙分、紙金紙大文、字の紙下と云ふ紙金紙と云ふ海内紙利也紙
ある紙金紙と云ふ紙と云ふ紙利と云ふ紙利也紙金紙と云ふ紙利也紙
川代紙紙利價紙遠古紙と云ふ紙遠古紙と云ふ紙金紙と云ふ紙利也紙
紙と云ふ紙は右左紙紙年高の思紙若紙は右左紙紙一丁又五丁
金紙利也紙

後明院紙御代明和七代子年紙張る紙長凡紙手幅紙利形もか小高し紙利も同日紙金、紙後目
紙と云ふ紙は右左紙紙年高の思紙若紙は右左紙紙一丁又五丁
紙利も同日紙金、紙後目

治世は又後日本紀より大 聖武帝の御代とて八代との地
より黄令出するより一歩より来れざるなりしを白浪の十代
天武天皇白浪之中元年正月御より思海造大石白浪始ありと
多しと貴とすと日知化より多し是後より白浪の出る地は是より
右ハ本紀より出るより令出を司ひるより一歩化より人皇
二十四代聖武天皇二年編一斛と浪後一丈代とて六五令浪後
本紀より出る浪後と清より也又本紀浪後清より也上右より清は
後聖武編一斛代とて是より教の便あり然くても何とせん余下聖武
より本紀より浪後大石より日知化より一歩浪後苗世の令出より何化

高き也千餘をこれ八代の際より一歩及一十代 持統天皇八年
表二月二日直廣肆大宅朝臣磨勅大武彦守 八鴻黃昏連本実少也
以て清後日知化より日本紀より後日本紀より八十三代
文武天皇三年始く清後日知化より直大棟本朝臣意味磨を以て
長官とすとありたそれと 本紀より清を清より一歩と
持統文武の御代より始れりとるもこれ八代聖武の代より浪後
ハ本國より清り多しと見えより中華ハ江漢より令出起るより
聖武より又南府の年の洪水陽の代七年の旱の災ありし小島王ハ
一層の令出を陽王ハ在山上令出保工誓と清り民と移す事物化
事よりこれ中華の令出の代より一歩の令出の制を清り此後ハ少也

字と利の法ハ世界と用無事々々あの中全流也流引するや世界中

融多すうあれ泉の字と利の法ハ世界と用無事々々あの中全流也流引するや世界中

之限令法後大上古ハ於泉と云一なる一

勿偏大利ハ利法後大上古ハ於泉と云一なる一

之を利一なるやふを泉の上古ハ於泉と云一なる一

たり一なる令法後大上古ハ於泉と云一なる一

するや既下女婿の時に和を和て幣と法とられハ女婿の法と

や孔の同法後大上古ハ於泉と云一なる一

大後と法と後一十二分を十二法と云一なる一

法と法と一なる一 令古法と云一なる一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

其すあハ茶の始を和以清一

婦人の御上候と云一なる一
主目ハ千五百里七川也之云一なる一

中華の年号武帝
建元と云一なる一

方すらんか上知倭漢子孫もそ能と少分其宗初の年号宗元 亦凡
文字命と以て世倍玄宗の代に陽と名する所し今亦その元
後を自と斗りしは宗元の元五年と云ふ代清く後進し日更
海りと之を宗元後と云ふ身は去宗元申根あり稀く後の子
宗元と云ふ八末の太宗帝 淳化元年淳化元定の抄と清太宗宗親
の事と云ふは始れり候請願と云ふ事 宗親の抄は八下蒙親
其より去る宗元公 古後と云ふ事より去るは六朝の比より始り梁
の顧頡の漢書と云ふ倭漢古後と電する人多し後代は
折の宗元古後事人長壽と保胤狸妖怪も其の事と云ふは後代傳

出たり初せざる也壽子系り宗元古後言作るべき也用の宗元の宗
元と云ふ大後子四百余年より及ぶ今於存せり始皇の事也二十四年余
及び和後心 和日同珍は子八十年余より及ぶ今も初せられたる
進退と蔵せざるもの有り今宗元と云ふ上古の形を存せしは抄は
代は形も宗元少初の事也

一 本朝清後の始り 人皇四十七代天武天皇白鳳十三年四月後後を傳
と初後と用ひ又々後後後と用ひしと日本紀出づ初後と云ふ事
んとも宗元白鳳元年初る國白根初と云ふ事付初後と傳るとん
上古大判小判一歩は沙はるるれハ砂金と云ひ或ハ金初後の取と云ふ

六本中華の海は利したると云ふ事、世に富壽神宝以後大徳仁九年 兼和

昌宝仁明帝永和二年 長年大宝同前帝嘉祥元年 饒益神宝仁和帝貞観元年 貞

観永宝同前帝貞観十二年 寛平大宝宇多天皇寛平三年 右二本中華の八本と云ふ

之を同捨し海と云ふは十二本に後、同姓割りもよく文字ハ乱事七撰と

云ふ唐宋の海は其の海貨之今、本館存入物少く別名和同五年

の海本條に世に古様同是勝宝元年宝長年宝元年宝元年宝元年宝元年

孝徳帝廢帝の所字勝宝元年宝字の此の海より、海貨之凡九海抄

かき也今より、村上天使年中海貨之海天心中と凡六百年

の事也、兵亂の、多し海貨の及し海海の海は、其の今と海交易し

下、唐の元徳元年後、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

元徳元年、成宗帝永業元年、海より海來え、後、唐の元徳元年、又明大徳元年

日とりて一徳之くくは之の爲文飾し一之文の好延家分天明とて方
徳院極 後院極所代敷十年し内江原川後院并於大坂福院の
後院吹出是とす後と云度全相おし文飾の福登成後と云く
清く磨し之を文字飾とて撰しとて可くは清の福を多已の位は方
抄あり古の後比しては室子電流の通流しとて可くは保家永
宣文の三後又六國元徳武永架の上りては之の成りし一後一後
る所を本後より後刻し書るる多し一後方代新の徳幣して用
泰隆の成子年及ひては存之原ノ官元宣宗歐陽向の書小宗徳化元宣
太宗帝の宸翰大親を宣宗後院宗皇帝勅書に後世界の玉宣これに

昔かき之貴の人又の成と撰て去りたも七代後抄と古の洞心後と後又
し時のとに成年の卷五人古く教示中華へ流る於彼もさし是今の後後
るは其の位成りし多し其もくは之の成りしとて
後院極所代敷和成十年四節定旨の相伝をさしとて清後を
四文後を其後以清後徳り八分書其海原の文之原の致四節死重一抄
目六下成之平抄四後代成りしとて九年清之南村在本の四文後を
小宗成之原の成り其後文と彼之成減二節成徳り七分重一後目三方
可く之の清りし原の成後今一向り定りて成りし方一後今
小宗成之清りし成りしとて清後徳り人として其後以成事なれ

たつて千匠風徳も移るる文内永一師の價徳口説と除九十五文と云ふ
幼定之師再此之既ありと云ふ九六と云ふ百十と云ふ是後正後も
み之也又坊後幼定少く小は是より九十九文と云ふ百文と云ふ
と云ふも宜之小言山氏の寛永此坊よりくしと云ふ怪成院も移く
是心で権重の忠告之地方最徳集し時代小知百文の積と云ふ八十二二六
十四本割付に七坊あり是を九十五文と云ふ割しハ少く今更に日中成と云
九六、極メ又天地の教益ハ多ク是座物の満く是坊より取又と云除
九十九文と云ふと云ふと云ふて是後更に少く今更に日中成と云
佐下り此坊幼の九十九文と云ふ坊より今中幸六梁の成希し付破成

より東より後八坊又云ふ百一と云ふと東後と云ふは師の上カ之坊又と
百一は是坊最坊と云系師九坊又と云ふと云ふ七坊と云ふ宋明宗の付
系師八坊又云ふ坊又と云ふ坊八坊と云ふ一更と云ふ又後座と云ふ師の付
二日使主事官坊と云ふ坊七十七坊と云ふ坊是と云ふ坊と云ふ坊
坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊
と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊
一 坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊
坊のまゝと云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊と云ふ坊

明量地尺

今曲尺一尺令二分四厘

明裁衣尺

同一尺令六分一厘六毫六絲余

此或平子之代の尺代は是より夏ノ代 紐糸一粒の横糸と下
と一トと二寸十寸と一尺と七寸細横糸尺是く股八寸と一尺
と尺原細糸 今日年の曲尺一尺寸く是とある尺と云同八寸と一尺
と尺も尺十二寸ヲ以夏尺十寸と除ハ八寸ニトナリ三毛ニ絲余
ニとナリ股尺八寸十二寸以十二寸と除ハ二尺く今日本の曲尺之尺
八寸と除キ六寸ニトナリ六毛六絲余と成く同平子の尺八
寸糸云八寸六分一厘三毛ニ絲余と又八寸下とも尺後ハ

に存立せし海階若孔方圓燈等七也裁形等寸トも知れ後
徑寸以徑寸寸之便し也 矢張區、是何れも是よりん

月一斗

七ノ糸標一絲二合九分四厘余也

漚一斗

同一尺四合四分四厘余也

親者一斗

同一尺四合七分七厘余也

隨唐米一斗

同一尺四合四分四厘余也

元一斗

同一尺四合七分七厘余也

明一斗

同一尺八合六分九厘余也

圓燈一斤

今秤等七錢圓と云ふも是よりん

統者一斤

口九十一後目下二高

隨唐一斤

口百三十三後目下二高

宋一斤

口百五十三後目下二高

明一斤

口百五十三後目

一 本邦上代漸為割取也志今世諸口後目下二高し 十与四十
 三後目と二枚と云津八斤目と云茶種音貝以茶若小走て是目
 とそんハ四後目と五百と二斤とて別一巨半目一斤と又亦く
 大後目と二百と二百目と一斤とすし其若之農氏のみを來にハ

山月と唱さるめと一斤とて價と偏ス本海抄 公依て一斤目の功定
 八平新目と唱さる自一斤の定法之又圓亦を京より二百と積ノ或三百
 目と一斤とするもさく一一定日本よりハ何條と云致重目と云和倍ハ廿四條
 と二百十二と一斤とさるもさく四後目と二百六十目と一斤とハ都部を境
 と海門を境と

伊金を分し其分三年と云ハ 本邦の負致と中華の二條二條とハ異れ

一 辨定解中九系師 之と云不云在年中
 大仲若海門統御存系之と云圓の外に江戸海軍系格屋及た、らあ今今
 連海ス西二十と圓とハ今今系師が解中し西二十と圓 神若甲と云者

老幼扶持一書

一 社会ハ宋の孝宗帝乾道年中朱文公宗老縣と治ハ内凶年々民を
 飢ラ傷ミ朱文公有 粟六石と伝求テ縣中の飢民を救ハ
 翌年豊年あり民不饑用ハ六石と求テ府に乞フミ軍中
 一箇社 曰クコトタレ曰ク一
 十ム家ヲ一社ト云 毎一舎と作テ藏シ夏ニ至リ米穀賣付貸
 シ秋ニ至リ移の糶シ之付カ、冬ニ至リ米穀賣付貸
 四年の凡ク元穀六百斛と官府より一 是米の積リ之千石と求メ
 一 多民に貸渡シ冬飢の時、米穀と糶シ舎、蔵ミ依テ縣中飢渴の患を
 一 良法と云フテ存世社会の法と遍ク云フコトアリ

世説新語 仕訳 朱子 社会法、其クアリ

一 漢の宣帝の内侍昌と云者常平倉と云事と創シ是年米穀多ク時ハ
 穀の價騰ク一々是と求メ民皆不カク又飢民ハ一舎穀カク則價
 亦一々買求メ食テ之使フ 是上寫民為政ノ善ト云フ 亦價もくも
 民患雖不恒然是と相入ル事、子倉と云事、穀の價騰キ付價と求メ民
 万の穀と求メ九倉、蔵ミ穀カク價も付ハ價と糶シ一 糶出ル民是と
 求テ飢と救フ也、是も亦、富家の多ク買テ、少ク糶シ出テ穀の價平準
 下能然、月就と云トカ、天下の曰民善と云事アリ 是と常平
 倉と号ト天下、けの及麻の汝ハ一 糶シ出テ穀の價平準、民の困

いふれ為給の利少くて儲の不足百民の救物上もろき及之亦米の陰
民田米蓋の社会固小民利不少然九年一十年ありハモ利久一々之
りれ大飢旱の付ハ社会の米穀一儲きしして飲するの事届飲めき
れハ穀減一米の儲きしし時一偏一食二つ三つハ社会一平銀
金と考テ常平の法の如く出さし随ハ穀と實と考也一凶年の備中て社会
き付是切ハ室一七世民と救ふの利ありんと考り 本邦よりても
人皇四十七代廣希定字年中常平金と建りし民と恵りしを考テ
少民と考テ常平金と一あり大穀の價を下り町人の利同と考也
百姓一利無少ハ國及一利ありんと考りし平準の法あり考り

一 社会と云ハ世の文帝ノ所度支尚春長孫平と云云
注別ノ金と建金と考テ民の貧富一均ハ毎年粟換り麦一石と云云
是と考テ金蔵め並て室の又云と云云平準ノ所考り一民と救ふ日
也一 人皇四十七代文武天皇天皇年中常平金と建りし官人ノ知
り内考り一也一民亦一限一穀一穀と云一入金忠雅
と考りし一也一平準ノ法九年倉儲候礼後守心之ハ金金ノ考りし
事アリ云云此法亦并何大毎歲秋夏分限一也一考りし是と考也
社会と考テ金ノ考りし是と考りし平準ノ法也何事凶年ハ七ノ民と救
りし内考りし平準ノ法也何事凶年ハ七ノ民と救りし内考りし平準ノ法也

一分限技持し事

切のしあらし取取而ふ八向の上原より初技持し種一れり於る
陸奥州也之しはしとより川より大勢の是れ若くは迫り出
教入りより令降候所先初技持し種一れり於る
先有難成る八年取也所技持し事と有る所村一振姓の女
時、村役人改し人し言川振、改せ候し由候は改の速風は候し

附 技持事此谷守持し事

市代及并、代也役技持法入用定し事

市代及、所屋川振入用定法し事

以技持方割

七指儀分九指儀と

百石分百四指石と

百五指石分百四指石と

百七指石分百九指石と

二百石

是より以上五指石身是人技持宛増

八百石

九百石

二人技持

七人技持

指人技持

指五人技持

指四人技持

指三人技持

指二人技持

是分以二百石并人扶持宛増

三千石

四拾人扶持

二千百石

四拾人扶持

是分千石并二百石并人扶持宛増

二千五百石

五拾人扶持

四千石

六拾人扶持

五千石

七拾人扶持

七千石

百五拾人扶持

是分千石并二百石并人扶持宛増

右ノ色旗也扶持方

漸上洛也依ノ外出用ノ事也其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

一信実等ノ八色旗五里外一信実門外五里内ノ五割増万石ノ六實下之也并

乃法重也、拖五割増兼大坂内也其傍也其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

割増後河内番八万石ノ下ノ石ノ割増也、定法

一今之人扶持一石之米或五石之米、定法、其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

時更ノ事也、其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

誤ノ事也、其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

一石之米、其分限ノ事也日ノ石ノ下實誠也

一 城比口村川邊に或る偏不天授使能解人朱能是 御法會の経を以て書法
 不徳の事ありて其の由代友自ら事紀不外の事ありて其の由代友自ら事紀
 一 由代友の事ありて其の由代友自ら事紀

園に就けし五割坊園越之ハ一信實を以て其の由代友自ら事紀
 ハ一信實を以て其の由代友自ら事紀

一 宍代二月三日に授け

一 平家法統の代

但平家法統の代に於て其の由代友自ら事紀
 其の由代友自ら事紀

一 由代友の事ありて其の由代友自ら事紀

一 由代友の事ありて其の由代友自ら事紀

一 由代友の事ありて其の由代友自ら事紀

但割坊の事ありて其の由代友自ら事紀

一 城川邊大授使の事ありて其の由代友自ら事紀

其の由代友自ら事紀

解人朱能の事ありて其の由代友自ら事紀

其の由代友自ら事紀

一 由代友の事ありて其の由代友自ら事紀

〇代役司人侍三人

一 法六十五文

一 法十七文

足柄小者中廻

一 法十七文

一 法八文

一 〇代友内司人侍三人

御朱平下長八本下内司人足一人代内司長持一持令定也

御朱平下長八本下内司人足一人代内司長持一持令定也

外代也長持也 奉配内司廻り八人下長八本下村下長八本

定法之

一 〇代一人身也一匹代役又煙尻一匹下長八本下人侍三人

下長八本下人侍三人

一 大換役又〇代長持少本下長八本下人侍三人

園師人用之長八本下一日長持也了後長持長持巨細係一日長持

也云云長持長持也上内司定下内司定一日長持也了

一 〇代友内司人侍三人

〇代友内司人侍三人

一 〇代一人

一 書役一人

一 侍三人

一 足柄一人

一 中間五人

一 陸尺四人

右の如く申す候事

一本五匹

一 田用長持人五人

一 代一人如五匹

一本役人種馬一匹

右の如く申す候事

一 陸尾川越の如く代役家族より代役不届は川越の人致家族に申入

用代役法入利の如く申す候事申入利ハ少くは尤形候代役法入利又切

不届申す川越切の如く申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

但代役不届申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

と法入利ハ申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

一 代役不届申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

是よりより地方の及くきやしりされに跡と述ぶ書若き
 候りし時し志の八人の中世後打拵候りし生涯の遺念かか
 経解の道は善く地方切者志守志何れ微臣の寸志と懐こりし
 目録の宗系よりして法とて一倭の遺徳と礼の礼と世
 承りし法と親味して書證令由の存 君臣の徳行ハ
 大命の由りしに付し次ハ小臣ハ本懐をよきよき一應の
 事及ひ世一孝令備ありし志執の内の第一なり早宣
 後季鳥枕寺臣大石久敏志執の二信と託志執と信
 色

